

## Cavernous hemangioma in the bladder of an 8-year-old boy



長谷川 暁久（福島県立医科大学 泌尿器科学講座）

この度、大変栄誉ある優秀論文賞（症例部門）を頂きまして、誠にありがとうございます。

本報告は、膀胱内に発生した良性腫瘍の症例です。従来のMRI画像所見では横紋筋肉腫との鑑別が困難である症例も、造影MRIにおける低血流像「slow-flow images」を追加することで、海綿状血管腫の画像診断ができる可能性を示しました。一般的に、良悪性の判断には拡散強調画像を用いることが多く、横紋筋肉腫はDWIで高信号を示すのに対し、海綿状血管腫はDWIで低信号を示すため、鑑別することが出来るとされます。しかし、症例によっては海綿状血管腫にもかかわらずDWIで高信号となり横紋筋肉腫と同様の所見がみられます。このような場合は海綿状血管腫と横紋筋肉腫との鑑別が困難であり、横紋筋肉腫を念頭に置いて診断治療を行わざる負えないケースがあります。本報告の「slow-flow images」は海綿状血管腫に特異的な画像所見と考えられるため診断の一助になり得えます。

私は、本症例を通じて、一つの症例を様々な視点から臨床推論することの重要性を学ぶことができました。

最後にこの場をお借りして、福島県立医科大学泌尿器科学講座の小島祥敬教授、佐藤雄一先生をはじめ、腎・泌尿器科学講座の先生方に心より感謝申し上げます。